

### 3 調 査

#### (1) 古 文 書

本年度、調査した文書は次のとおりです。

区分	調査名	調査先	期 間	関連地域	概 要
古代 ・ 中世	醍醐寺聖教調査	醍醐寺	平成18年6月20・ 21日, 8月24日・ 25日	京都市	醍醐寺聖教の名称、員数、書写年等の内容調査
近世 ・ 近代	近世領主関係文書調査	個人	平成18年6月8日	京都府	府域の亀山（亀岡）、園部、山家、綾部、福知山、田辺（舞鶴）、宮津、峰山の各藩等の藩札の内容調査
	近世領主関係文書調査	淀神社	平成18年6月9日 ・7月14日	京都市	山城国淀城図の概要、保存関係調査。後半は府文化財保護課との共同調査
	京丹後市所蔵稲葉家文書共同調査	京丹後市久美浜市民局	平成18年6月17 ～19日・9月16 ～17日・12月10 日	丹後	近世・近代に久美浜で麴屋、船問屋等を営んでいた稲葉家に伝来した文書の他機関との共同内容調査
	京都府域関係古文書所在調査	滋賀大学経済学部附属史料館	平成18年7月5日	近江	府域の淀藩等の藩と今出川家等の公家の近江国領地村関係文書の所在確認調査
	近世領主関係文書調査	舞鶴市郷土資料館	平成18年7月27 日	丹後	同館蔵の糸井文庫内の峰山藩、久美浜代官所等関係文書の所在、内容確認調査
	近代京都府関係私文書調査	個人	平成19年1月23 日	京都市	明治期の京都府職員に出された辞令等の内容調査
	近世領主関係文書調査	長野県立歴史館・上田市立博物館	平成19年3月7～ 9日	丹波	府域の淀藩主であった戸田家（松本藩主）と亀山（亀岡）藩主であった藤井松平家（上田藩主）の京都関係文書の所在、内容確認調査

#### (2) 行 政 文 書

##### ア 本庁文書調査

本庁舎の執務室改善に伴い廃棄されることになった、各課（室）で保管していた約2,300箱分の文書を選別し、その内1,583冊を収集するため目録を作成した。

##### イ 府機関等文書調査

本年度は、実施していません。

##### ウ 府内市町村行政文書調査

本年度は、実施していません。

## 4 閱 覧

### (1) 図 書 資 料

#### ア 図書閲覧室

京都に関する専門的な調査研究のための閲覧室で290席あります。開架図書約5万冊を自由に利用できるほか、書庫内の図書資料は閲覧請求のうえ利用できます。

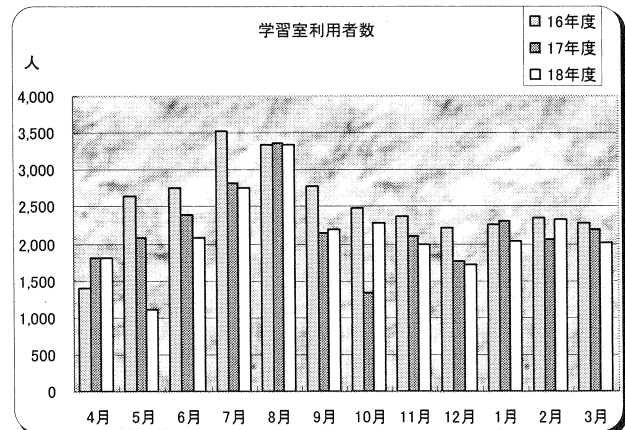
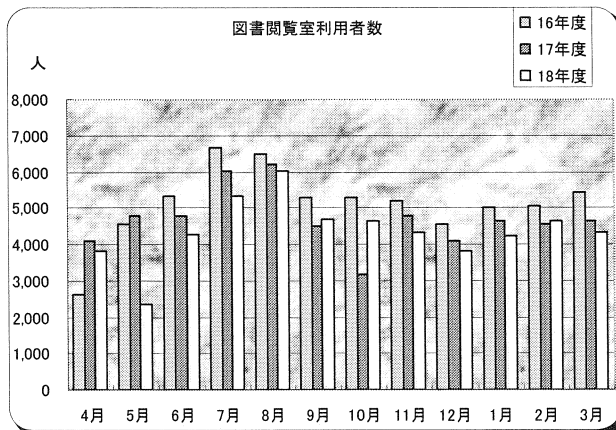
本年度の利用者数は52,461人（1日平均164人）、書庫出納冊数は61,189冊でした。

#### イ 学習室

自習室で140席あります。本年度の利用者数は25,652人（1日平均80人）でした。

### 閱 覧 室 等 の 利 用 状 況

年 月	開館日数	図書閲覧室 (1日あたり)	学 習 室 (1日あたり)	書 庫 出納冊数	図書資料の相談件数			
					口頭	電話	文書	
18年4月	28 <sup>日</sup>	3,815 <sup>人</sup> (136) <sup>人</sup>	1,806 <sup>人</sup> (65) <sup>人</sup>	4,760 <sup>冊</sup>	1,097 <sup>件</sup>	914 <sup>件</sup>	172 <sup>件</sup>	11 <sup>件</sup>
5	15	2,358 (157)	1,110 (74)	3,262	818	652	153	13
6	29	4,283 (148)	2,074 (72)	4,923	1,214	1,046	143	25
7	29	5,318 (183)	2,768 (95)	5,815	1,175	1,038	131	6
8	30	6,024 (201)	3,350 (112)	5,409	1,373	1,203	164	6
9	27	4,695 (174)	2,198 (81)	5,618	1,250	1,079	167	4
10	29	4,638 (160)	2,276 (78)	6,565	1,248	1,094	131	23
11	27	4,313 (160)	1,994 (74)	5,927	1,326	1,184	134	8
12	25	3,818 (153)	1,716 (69)	5,080	995	891	94	10
19年1月	25	4,244 (170)	2,024 (81)	4,744	1,089	950	124	15
2	26	4,644 (179)	2,334 (90)	4,470	1,076	942	119	15
3	29	4,311 (149)	2,002 (69)	4,616	999	839	151	9
計	319	52,461 (164)	25,652 (80)	61,189	13,660	11,832	1,683	145



注 1 : 平成16年度は4月12日～23日、17年度は9月29日～10月13日の間、18年度は5月15日～26日の間、それぞれ臨時休館

## ウ 図書資料の相談

所蔵資料の有効な利用を図るため、資料の利用案内や調査・研究の支援等の相談業務を行っています。図書閲覧室のカウンターでの相談のほか、電話・文書等による相談にも応じています。本年度の相談状況は、次のとおりです。

### (相談の内容別内訳)

	館利用 案内	複写依頼	特定図書 の 所蔵調査	図書に 関 する 書誌 的調査	人名・地 名等の読 み方調査	人 物 ・ 団 体 調 査	内 容 調 査	その他	計
口頭	5,043	3,383	1,435	154	18	119	1,148	532	11,832
電話	358	105	625	41	14	20	447	73	1,683
文書	4	78	15	8	0	1	38	1	145
計	5,405	3,566	2,075	203	32	140	1,633	606	13,660

### 〔相談事例〕

○祇園祭で明治に途絶えたといわれる「大船鉾」について知りたい。

『祇園祭細見』によると船鉾は「応仁の乱以前は二基あり、新町通綾小路下ルの「出陣」の船鉾と同四条下ルの「凱旋」の船鉾である」とある。現在残っているのは前者で、後者「凱旋船鉾(大船鉾とも呼ばれる)」は元治元(1864)年に大部分を焼失し、明治以降復興は出来なかった。

#### 【参考資料】

『京都祇園祭の山鉾の図のある江戸時代の板本』(K1-386.16-086)

『祇園会細記』(和-995-17)

『山鉾由来記』(和-995-1)

『祇園祭細見』(K1-386.2-Ma74)

○桂大橋について ①現在の橋は3代目だと思うが1～3代目の架橋された年代を知りたい。②桂川にかかるそれぞれの橋の名前の由来について知りたい。

①『京都の橋・河川・水路』によると桂大橋は、明治22年7月、明治38年1月、昭和3年10月、昭和56年3月と架けかえられ、現在は4代目である。

②橋の名前の由来を明確に記した資料はなく、渡月橋についてのみ『京都市の地名』に、嵐橋、法輪寺橋等とも呼ばれたが亀山天皇が「くまなき月の渡るに似る」として渡月橋と命名したとある。

#### 【参考資料】

『京都の橋・河川・水路 1』(MK1-517.09-Ky6)

『京都市の地名』(K1-291.62-H51)

○京都市山科区さんかいの山階さんかい小学校の校名の変遷について。山階高等小学校はいつまであったか。

『山階校創立百周年記念誌 山階』所収の「山階小学校の年表」によると、明治13年4月16日東野校から山階校と名称変更、明治20年11月に宇治郡第一高等小学校を併設して山階尋常小学校と名称変更、明治25年12月には宇治郡第一高等小学校を廃し山階高等小学校を新設、明治31年3月31日山階尋常高等小学校と称する、とあるので山階高等小学校は明治25年12月から明治31年3月31日までと考え

られる。

【参考資料】

『山階校創立百周年記念誌 山階』(K142-376.28-Ky6)

○野々村仁清の記事が「御室御記」に載っているそうだが、最初に載ったのはいつか。

『野々村仁清展』の御室焼関係年表によると、慶安3(1650)年10月19日の記事が最初である。

また、『国宝仁清の謎』に蜷川第一の「御室御記」発見報告の記述があり、「慶安3年(1650)10月19日条に「丹波焼清右衛門来」の記載を発見した」とある。

なお御室御記の原本は仁和寺所蔵であり、刊本等はない。

【参考資料】

『野々村仁清展』(751.1-N95)

『国宝仁清の謎』(751.1-036)

○京都の日活と大映の撮影所のあった場所が知りたい。

『京都の映画80年の歩み』、『物語京都の撮影所』(新聞連載スクラップ)、『日本映画と京都』等によると大正7年にまず日活大將軍撮影所ができ、昭和3年に太秦に移転して日活太秦撮影所となった。その後昭和17年1月映画会社の統制により、新興キネマ・大都映画・日活の製作部門が合併して大映株式会社が誕生すると、この撮影所は昭和46年に大映が倒産するまで大映京都撮影所と呼ばれていたことがわかった。

所在地は日活大將軍撮影所が京都市北区大將軍(現・大將軍小学校付近)、日活太秦撮影所のちの大映京都撮影所は京都市右京区太秦多藪町(現・帷子の辻300メートル南、太秦中学校付近)である。

【参考資料】

『京都の映画80年の歩み』(K1-778.21-Ky6)

『日本映画と京都』(K1-778.21-B39)

『物語京都の撮影所』(新聞連載スクラップ)(K1-778.09-Ky6)

『京都映画図絵』(K1-778.21-To31)

○峯山鉄道開通式(大正14年10月15日)について。この時期に「峰山線鉄道建設概要」という冊子のよなものが建設省から出版されたいが、当館で所蔵しているか知りたい。

当館所蔵の資料に、「峯山鉄道」関連のものは見つからなかった。『福知山鉄道管理局史』p.305-310に「峯山線」についての記述があり、それによれば「建設過程等は部内で発行された『建設概要』がみあたらないので、地方誌史による外ない」、「宮津・峰山間の建設概要を記した地方誌は見当らず…」とある。

なお、峯山線開通式の日について『峰山郷土史 上』p.599によれば、大正14年10月15日は建設列車が峯山駅に現れた日であり、峯山線開通式は11月3日となっている。『福知山鉄道管理局史』p.337-338にある「峰山線・峰豊線建設年表(宮津線)」でも、大正14年11月3日の箇所「丹後山田・峯山間開通し峯山線完成」と記載されている。

当館以外では、NACSIS-Webcatによれば「峰山線鉄道建設概要」は大阪産業大学総合図書館が所蔵している。

【参考資料】

『福知山鉄道管理局史』(MK35-1-686.216-F74)

『峰山郷土史 上』(K431-216.2-Mi44)

『峰山年表』(K431-216.2-Mi44)

○三哲通と玄以通は人の名前から付いたと聞いたが、誰なのかを知りたい。

三哲通は『京町鑑』(『新修京都叢書 第3巻』所収)によると、<sup>りゅうがんじ</sup> 洪川三哲という立願寺の開基の人にちなむとする。玄以通は『京都の大路小路』に、上賀茂にある「玄以」という小字名に由来するとある。

なお、似た通り名である玄塚通は『京都市の地名』に野間玄塚という御典医が住んでいたことに由来するとある。

【参考資料】

『京都市の地名』(K1-291.62-H51)

『京都の大路小路』(K1-291.62-Ky6)

『新修京都叢書 第3巻』(K0-291.62-Sh69-3)

○戦時中京都市の御池通、五条通、堀川通で強制疎開が行なわれたが、その時に対象となった建物の中で著名人の家が知りたい。

①『思い出の五条坂』に昔の五条橋東三丁目の記録があり東山五条から川端五条あたりの南北両側の家が表示されている。その中から疎開を命じられた南側で著名と思われる人の名前(高橋道八、河合瑞豊(卯之助の父)、清水六兵衛等)を伝えた。

②『五条坂陶芸のまち今昔』の「五条坂記念碑」によると「優秀な創作陶芸、優秀な陶磁器を制作する個人作家や生産工場は、芸術・技術保存のための特別措置をとられており、清水六兵衛は数少ない資格者の一人に認定されていた。しかし、それと強制疎開は別問題である。…陶芸家清水正太郎(のちの六代清水六兵衛)の約七百坪の敷地の半分以上、のぼり釜と土蔵の建つ土地を除いた、住まいと工場のある部分は強制疎開を命じられた」とある。

③堀川通については『醒泉学区強制疎開の記録』に一軒ごとの表示があるが五条通と違って苗字だけで、著名人の判断はつかなかったので資料の紹介にとどめた。

④御池通りについての詳細な資料は不明である。

【参考資料】

『続京都に強くなる75章』(K0-291.62-Ky6)

『思い出の五条坂』(K141-216.2-G58)

『五条坂陶芸のまち今昔』(K141-751.1-Ta82)

『醒泉学区強制疎開の記録』(K151-393.6-081)

○「左義長」「どんと祭」の京都の風習について ①京都での呼び方②燃やす時の掛け声③開催単位④その他特筆すべきことを知りたい。

どんと祭(左義長)について京都府でも各市町村、各地区、各神社等によってそれぞれで異なり回答をひとつにまとめることは難しい。

①「とんど」「どんど」「左義長」などいろいろある。

②掛け声の記述のある資料はほとんど無く、『日本歳事史 京都の部』の「左義長、三毬杖」の項

に「とんとやとんと」と囃すとあるが、これが京都独自のものかどうかは不明である。

③開催単位は各地域によって違い、村、地区、集落、神社など色々ある。一例として『城陽市民俗調査報告書 第2集』久世地区の「小正月・トンド」の項に「昔は各家や村の各所、家の裏、辻々、畑でトンドをしていた」とある。

④地区によって「その年の恵方を向いて火をつける」とか「恵方の方に向けて倒す」とかの記述がある。また、「東<sup>ひがしいもあらい</sup>一口のとんど（京都府久御山町大字東一口）」は京都府登録無形民俗文化財となっている。

#### 【参考資料】

- 『都道府県別日本の民俗分布地図集成 8 近畿地方の民俗地図』(K0-382.16-Ki44)
- 『日本の民俗 26 京都』(K0-382.16-Ta59)
- 『日本歳事史 京都の部』(K1-386.1-E51)
- 『京都暮らしの大百科』(K0-386.16-Ky6)
- 『京の歳時記今むかし』(K1-386.16-Y26)
- 『京都歳時記』(K1-386.16-Ky6)
- 『城陽市民俗調査報告書 第2集、第3集』(K261-382.16-J85)
- 『久御山町の今昔』(K262-216.2-Ku38)
- 『ふるさとの暮らしを語る』(K286-216.2-Y44)
- 『丹波矢代民俗資料』(K331-382.16-N48)
- 『ふるさと美山の生活誌』(K333-382.16-036)

#### ○京都で5月の節句に使われた菖蒲兜について知りたい。

菖蒲兜とは菖蒲で作られた簡易な兜のことで、時節の花で飾られていたようである。『季節を祝う京の五節句』の「端午の節句」の項によると、「女房たちに、しょうぶかぶとさせ、花ども…」（『弁内侍日記』）、「5月5日、所々より御かぶとの花、くす玉など、いろいろにおほくまいれり」（『増鏡』の建長3（1251）年5月5日条）との記事があり、その歴史は鎌倉時代まで遡ることができる。また、同書には菖蒲兜（復元品）のカラー図版も掲載されている。

#### 【参考資料】

- 『季節を祝う京の五節句』(K1-386.16-Ky6)
- 『端午の系譜』(K1-386.1-Y99)

## (2) 文書資料

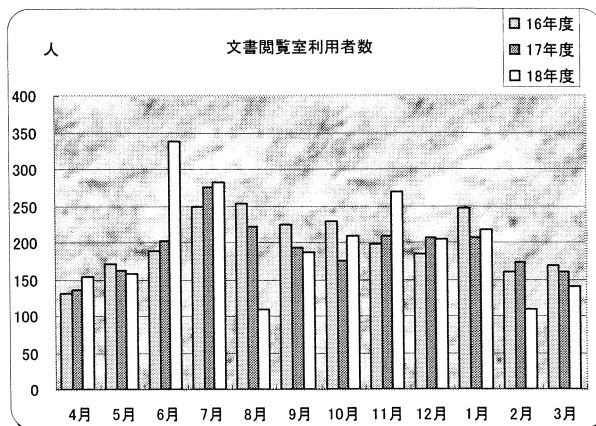
文書閲覧室は、古文書、行政文書、写真資料及び近代文学資料の閲覧室で、35席あります。閲覧室に配架してある東寺百合文書写真帳、京都府布令書や写真資料コピーを自由に利用できるほか、デジタル画像の閲覧（一部は閲覧申請が必要）ができます。また、書庫内の文書資料は閲覧申請のうえ利用できます。

本年度の利用者数は2,373人（1日平均7.4人）、書庫資料閲覧点数は10,159点（1日平均31.8点）でした。

## ア 古文書の閲覧

### (7) 古代・中世文書の閲覧

館蔵文書は東寺百合文書（原本）が69人、476点、寄託文書は随心院文書が、3人、12点、文書複製資料は天竜寺文書等、128人、867点で、その他、閲覧室に配架している東寺百合文書写真帳の利用が54人あり、合計254人、1,355点の利用がありました。



注：平成16年度は4月12日～23日、17年度は9月29日～10月13日の間、18年度は5月15日～26日の間、それぞれ臨時休館

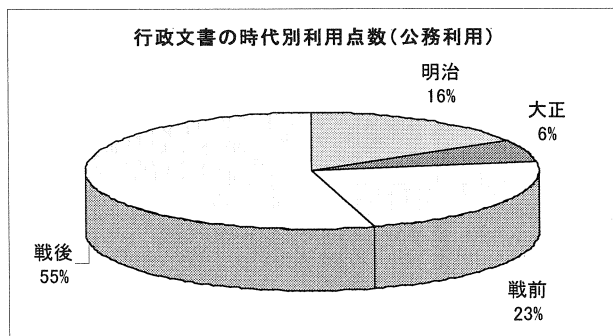
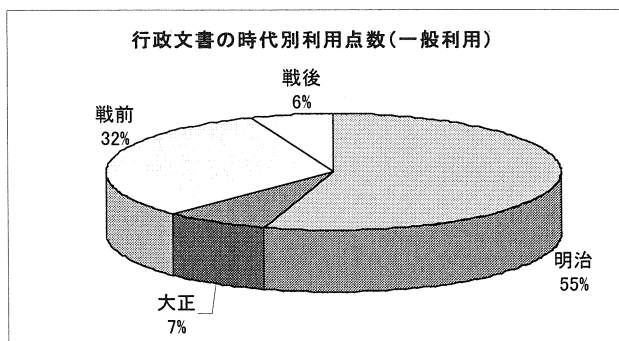
### (4) 近世・近代文書の閲覧

館蔵文書は若杉家文書、中井家文書、古久保家文書、三条衣棚町文書等、616人、3,835点、寄託文書は稲葉神社所蔵文書、大國家文書等、23人、114点、文書複製資料は黒田地区文書等、10人、64点で、合計649人、4,013点の利用がありました。

## イ 行政文書の閲覧

学術調査研究を目的とする一般の閲覧者は905人で、明治期の文書を中心に昭和20年前後の文書等3,356冊の利用がありました。

また、府職員等の公務上の閲覧者は277人で、1,434冊の利用があり、閲覧者の合計は1,182人、利用冊数の合計は4,790冊でした。



## ウ 写真資料の閲覧

写真資料は閲覧室に配架している写真資料コピーとデジタル画像の利用が併せて9人ありました。

## エ 近代文学資料の閲覧

近代文学資料は2人、1点の利用がありました。

## 文書閲覧室の利用状況

年月	開館 日数 (日)	利用者人数(人)													
		古文書					行政文書			写真資料			近代文学資料	その他 利用	合計
		古代・中世			近世・ 近代	計	一般 閲覧 利用	公務 利用	計	閲覧利 用	写真資料 コピー 及び デジタル 画像利用	計	閲覧 利用		
		閲覧 利用	東寺百 合文書 写真帳 利用	小計											
18年4月	28	9	5	14	47	61	50	19	69	0	2	2	0	21	153
5月	15	9	5	14	41	55	41	29	70	0	0	0	0	32	157
6月	29	15	4	19	84	103	94	31	125	0	2	2	0	107	337
7月	29	13	2	15	100	115	115	24	139	0	3	3	1	24	282
8月	30	10	4	14	22	36	48	16	64	0	0	0	1	8	109
9月	27	10	4	14	33	47	91	33	124	0	0	0	0	16	187
10月	29	15	3	18	65	83	95	19	114	0	1	1	0	10	208
11月	27	13	6	19	94	113	127	15	142	0	0	0	0	15	270
12月	25	49	10	59	44	103	59	32	91	0	1	1	0	10	205
19年1月	25	16	2	18	77	95	90	22	112	0	0	0	0	10	217
2月	26	13	2	15	22	37	46	19	65	0	0	0	0	7	109
3月	29	28	7	35	20	55	49	18	67	0	0	0	0	17	139
合計	319	200	54	254	649	903	905	277	1,182	0	9	9	2	277	2,373

年月	開館 日数 (日)	書庫資料閲覧点数(点)								
		古文書			行政文書			写真 資料	近代 文学 資料	合計
		古代・ 中世	近世・ 近代	計	一般 閲覧 利用	公務 利用	計			
18年4月	28	77	227	304	197	82	279	0	0	583
5月	15	50	645	695	159	142	301	0	0	996
6月	29	86	306	392	228	263	491	0	0	883
7月	29	171	297	468	344	150	494	0	0	962
8月	30	97	175	272	216	46	262	0	1	535
9月	27	86	238	324	389	145	534	0	0	858
10月	29	94	380	474	320	130	450	0	0	924
11月	27	60	815	875	435	93	528	0	0	1,403
12月	25	256	209	465	263	118	381	0	0	846
19年1月	25	100	270	370	315	75	390	0	0	760
2月	26	156	201	357	233	103	336	0	0	693
3月	29	122	250	372	257	87	344	0	0	716
合計	319	1,355	4,013	5,368	3,356	1,434	4,790	0	1	10,159



### (3) 管理委託現物資料

京都府京都文化博物館を運営する財団法人京都文化財団に管理委託している美術工芸資料等の現物資料については、調査研究のため特に必要な場合、特別観覧に供しています。

本年度は、合計15件、131点の特別観覧がありました。主なものは次のとおりです。

申請者の区分	部 門	資 料 名	点 数
個人	日本画	鶴澤深山「五節句図」ほか	10点
個人	日本画	「朝鮮通信使行列図」	1点
個人	陶芸	三代清風余平「青華磁牡丹唐花花鳥花瓶」ほか	2点
個人	漆芸	「黒漆塗紋蒔絵茶弁当」ほか	10点
個人	風俗	吉川観方扮装写真（ガラス乾板）	22点
個人	郷土玩具	「石見長浜土人形」	1点

## 5 東寺百合文書の翻刻

東寺百合文書をより広く利用してもらうため、翻刻して活字化する史料集の刊行を平成15年度に開始しました。本年度その第4巻が刊行されましたが、概要は次のとおりです。

書 名	「東寺百合文書 四」
内 容	口函の一部 39点。八函の一部94点。巻末に花押一覧を収録
体 裁	A5判 456頁
定 価	9,975円（本体価格 9,500円）
編 集	京都府立総合資料館
発 行	(株) 思文閣出版
発行日	平成18年11月20日

## 6 共同研究

### (1) 府立大学との共同研究

当館所蔵資料等について、平成13年度から府立大学文学部史学科との間で共同研究を行っていますが、本年度は、次のとおり時代別研究を行いました。

#### ◎時代別研究

時代	研究テーマ	対象資料	備 考
近世	近世広域行政機関（京都町奉行所等）文書の研究	町代日記（古久保家文書）	府立大学大学院講座「地域史研究」において対象資料の解説文を作成

### (2) 科研費研究

資料館所蔵の「京都府行政文書」の一部が、平成14年度に重要文化財に指定されたことに伴い、平成17年度から平成19年度までの3ヶ年の予定で、文部科学省科学研究費補助金の交付を受け、「京都府行政文書を中心とした近代行政文書についての史料学的研究」が実施されることになりました。

この研究は、重要文化財に指定された「京都府行政文書」の保存と活用を図ることを目的とする

もので、京都府立大学助教授小林啓治氏を研究代表者とし、各大学等の日本近代史や文化財保存の研究者により構成されています。また、当館所蔵資料であることから、当館職員も研究協力者として参加しています。

平成18年度は、全体研究会が2回開催されました。また、館内で重文指定資料の劣化・損傷状況のサンプル的な調査を行いました。

最終年度である平成19年度には、8月下旬にシンポジウムが予定されています。また、研究報告書の作成を通じても成果が公開される予定です。

### (3) 府大ACTR

京都府立大学が平成16年度より実施している地域貢献型研究「府大ACTR (Academic Contribution To Region)」に、今年度、当館は課題提案を行いました。それを受けて、同大文学部水本邦彦教授が代表となって、「京都府内の歴史文化関係機関の所蔵する歴史文化資料の評価とその総合的利活用システムの構築に関する研究」が実施されました。これに当館も参加して、資料の利活用システムを検討する「京都歴史文化デジタル温故知新システム」テスト版の作成等を行いました。

## 7 地域資料保存・活用担当者会議

平成12年度から平成17年度にかけて「京都府20世紀資料整理事業」を実施し、京都府内の歴史資料の所在を把握するとともに、これら資料を保存するための方策を講じてきたところですが、21世紀におけるこれからの歩みを考える手がかりとし、今後も引き続き府内各地域の行政文書、古文書等をはじめとする地域資料の保存と活用について理解を深めるために、地域資料保存・活用担当者会議を平成19年1月24日総合資料館会議室で開催しました。

## 8 館蔵資料の撮影と複写

### (1) 撮影と複写

館蔵資料を調査研究、出版等に使用するための特別撮影及び利用は195件、3,013点でした。

また、館蔵資料の複写利用は14,107件、347,702枚でした。なお、このほか府職員の公務上の複写利用が117件、2,963枚ありました。それぞれの内訳は、次のとおりです。

特別撮影及び利用状況

資料種別	件数	点数
図書資料	75件	138点
文書資料	89	256
古文書	47	133
行政文書	9	20
写真資料	31	101
近代文学資料	2	2
管理委託現物資料	31	2,619
合計	195	3,013

## 複写利用状況

資料種別	複写種別		件数	枚数
図書資料	電子式複写	白黒	13,633 件	286,635 枚
		カラー		2,529
	マイクロ複写			13,997
	マイクロリーターフプリンター			2,702
	デジタル画像プリント			23
	小計			13,633
文書資料	電子式複写	白黒	474	11,276
		カラー		25
	マイクロ複写			27,987
	マイクロリーターフプリンター			2,153
	デジタル画像プリント			375
	小計			474
合計			14,107	347,702

## (2) 報道機関による情報発信

### ア 「古典籍をあじわうー総合資料館の書庫からー」

総合資料館が所蔵する古典籍について、府立大学文学部教員及び資料館職員がわかりやすく解説する「古典籍をあじわうー総合資料館の書庫からー」を京都新聞に連載しています。高校生をはじめ広く府民に文学の面白さを伝え、生涯学習に生かしてもらおうと同時に、京都の文化の奥深さと歴史の蓄積を紹介することを目的に、総合資料館と府立大学の共同の取り組みとして始めました。毎月第1・第4木曜日の朝刊教育面に、半年間掲載する予定です。

本年度掲載分は下記のとおりです。

掲載日	古典籍	執筆者
3月1日(木)	源氏物語	安達敬子氏(京都府立大学文学部助教授)
3月22日(木)	万文反古	藤原英城氏(京都府立大学文学部助教授)

### イ 「雑学京都史」

これまで知られているようで、意外に知られていない京都を舞台とした歴史の話を総合資料館が所蔵する資料を使って、職員が紹介する「雑学京都史」を京都新聞に連載しています。毎月第4水曜日の朝刊市民版に掲載する予定です。

本年度掲載分は下記のとおりです。

掲載	資料	執筆者
3月28日(木)	一服一銭茶売人請文 (東寺百合文書)	池田好信(当館職員)